

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 2月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4691600037
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	グループホーム 曾於
所在地	鹿児島県曾於市財部町南俣99-1 (電話) 0986-72-3034
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島県鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成22年2月16日

## 【情報提供票より】(22年 1月 20日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 1月 18日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤 5 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 19 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分
------	-----------------------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		850 円	

## (4) 利用者の概要( 1月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 三篤会 高原病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧財部町の自然が残る住宅集落地に建っている。スーパーと公園が隣接しており、ホームの裏手には菜園を設け、利用者が暮らし易い環境である。一人ひとりの「自立・快適・安心」をモットーにケアするという姿勢が管理者をはじめ職員からうかがえ、地域催事の参加を通して、住み慣れた地域での生活の質を高めることを目指している。室内は心やすらぐ家庭的な雰囲気がたどよい、生活感や季節感が感じられる空間となっている。リビングは日差しが差し込み明るく、過ごしやすく、利用者が思い思いにくつろげる場所となっている。訪問時も入居者と職員の仲
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果は職員のミーティングで話し合い、今回の自己評価は、管理者が作成したものを職員で確認、まとめたものである。改善に向けての具体的な取り組みも自己評価票に明示し、サービスの質を向上させるために有効に活用している。しかし、前回の評価の改善点の話し合いの結果が書面で確認できず、職員その他関係者で結果を共有しているとはいいたい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者が作成したものを職員で確認、話し合っまとめたもので、改善に向けての具体的な取り組みも自己評価票に明示し、サービスの質を向上させるために有効に活用している。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催され、地域代表、家族代表、市介護保険課職員、民生委員などの参加がある。事業所行事等の報告のみではなく、活発な意見を持ち活動的な人を次回の運営推進会議のメンバーに推薦するなど出席者の意見や助言などが毎回あり、有意義な会になっている。
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 写真と利用者の暮らしぶりを記載したお知らせを毎月発行し家族に配布している。職員の異動については面会時や運営推進会議で報告し、金銭管理については面会時に説明し金銭出納簿に確認の押印をもらっている。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話などで家族へ報告している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけ、地域行事への参加などにより関係づくりに力を入れている。幼稚園との交流会、ボランティアの受け入れを行った。地域の方から野菜の差し入れをいただいたり、日常的に交流が行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を基本に「家族や地域のふれあいを大事にします」と地域と密着したホーム作りをホーム理念としてつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りや日々の業務の中で折に触れ理念を確認し介護に取り組んでいる。また、理念は玄関、リビングからみえる事務室に掲示するなど職員のみでなく来所者にも理解してもらえるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけ、地域行事への参加などにより関係づくりに力を入れている。幼稚園との交流会、ボランティアの受け入れを行ったり、地域の方から野菜の差し入れをいただいたり、日常的に交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は職員ミーティングで話し合い、今回の自己評価は管理者が作成したものを職員で確認、話し合っまとめたもので、改善に向けての具体的な取り組みも自己評価票に明示し、サービスの質を向上させるために有効に活用している。しかし、前回の評価の改善点の話し合いの結果が書面で確認できず、職員その他関係者で結果を共有しているとはいえない。	○	改善計画シート等を利用し職員全員で結果や問題点を共有し、改善を目指すとともに、来所者とも共有できるよう玄関等に結果を設置されることが望ましい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、地域代表、家族代表、市介護保険課職員、民生委員などの参加がある。事業所行事等の報告のみではなく、活発な意見を持ち活動的な人を次回の運営推進会議のメンバーに推薦するなど出席者の意見や助言などが毎回あり、有意義な会になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	頻繁に市担当窓口などへ事務手続きやその他の機会に訪問し情報交換を行い、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真と利用者の暮らしぶりを記載したお知らせを毎月発行し家族に配布している。職員の異動については面会時や運営推進会議で報告し、金銭管理については面会時に説明し金銭出納簿に確認の押印をもらっている。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話などで家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するとともに、利用開始時に苦情相談窓口について書類を見せながら家族に説明している。第三者委員を設けたり、家族会を年に1回行ったり、家族の意見や要望が出しやすいように配慮している。ただ、職員が苦情などを把握した時には申し送り簿等で他の職員と共有し、解決を図っているとはいいがたい。	○	苦情につながるかもしれない小さな要望等を把握共有し改善を行うために書面にて職員全員で共有できるよう体制を整えられることが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を考慮し、職員の労働環境の向上に努め、離職を防止するように努力している。介護スタッフについては異動がある時には引き継ぎ期間を設けるなど十分な情報の伝達と利用者の混乱を防ぐための対応をしている。今回の管理者の引継については十分とはいえない。	○	今後管理者等重要なポジションの引継を考慮にいれ、業務の責任を明確にし引継ぎを行いやすいように、事務分掌表の作成や管理者の引継書等の活用が期待される。
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修については積極的に職員に紹介し、勤務の調整や受講費を法人が負担するなどキャリアアップのための職員の支援を行っている。しかし、習熟度に応じた施設内の研修計画はばく然としたもので具体的とはいいがたい。	○	立場や経験などに応じて段階的に力をつけていけるような研修方針を明文化することが望まれる。限られた職員体制の中で、実務に支障をきたさないように研修機会を確保するためにも、職員と十分に話し合いながら年間計画の中で位置付けていく運営面での工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	曾於市グループホーム・小規模多機能ホームの会に加入し、講義のみでなく介護技術のより実践的で意義のある研修機会の確保を行うとともに職員の交流をはかっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者等が出向いて自宅の様子を確認したり、見学や体験、訪問でより安心して入居できるように工夫している。施設からの入居の場合は担当者との連携をはかり、サマリーなどをもとに場に馴染めるように気を配っている。また、入居後は家族の訪問を多くしてもらったり、ゆっくり滞在してもらうなどホームの雰囲気に慣れやすいように協力を求め、ともに支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに過ごす中で料理方法など得意なことを教えてもらったり、言い伝えを覚えてもらうなど学んだり支えあう関係を築いている。また、利用者の話しやすい話題を提供し職員と利用者の会話や情報交換が活発になるように配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有をはかっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に計画作成担当者を中心に検討し、利用者主体の介護計画作成をしている。職員の気づき、家族の意見の確認は介護計画作成時だけでなく日常的に行うようにしている。また主治医には文書で確認してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画について3月に1回はモニタリングを行い記録している。入居直後で状況が変化しやすい時期や、入院後の生活機能等に変化があり介護計画の見直しが必要な時には、担当者会議を開いて計画の見直しを行い、きめ細かいサービスを提供している。	○	日ごろの介護を計画に結びつけるためにも、月に1回は評価をおこない、書面として残しておくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助、入院時は早期退院に向けての支援、家族の宿泊支援や食事の提供など臨機応変に対応している。また、地域で暮らす認知症のお年寄りや家族の相談を受けることも行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の意向を大切に決めていく。受診時も適切に治療が受けられるようにケース記録を活用し情報提供に努めており、良い関係がつけられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員で作成した重度化や終末期に対する対応指針を定め、家族・運営推進会議や職員ミーティングで話し合っているが、現状では終末期対応は難しいところである。	○	ターミナルケアを目指した姿勢は評価はできるが、現状にあわせた方針を明文化し、家族の同意をとり、職員とは共有されることが望まれる。
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の利用目的を含めて方針を利用者や家族に説明している。また、記録等は外来者の目に触れないように事務室の鍵のかかる書庫に保管している。利用者への日頃の声かけについては個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけをしている。居室には洗面台、トイレが備えられプライバシーが確保されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。希望があれば、晩酌や喫煙もできる体制である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注食の取り入れや地域の方の差し入れ、自家菜園の旬の食材を利用し、味見をしてもらうことで食への興味を持ってもらう工夫をしている。利用者と職員がともに食卓を囲み、後片付けも会話をしながらの楽しい食事風景だった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外毎日入浴ができ、利用者の意向を聞いたり、皮膚の状態により入浴回数を変えている。また、入浴を嫌われる方には個別に対応しできるだけ声かけを工夫し入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	切干大根作り、梅干、漬物等食事の支度や後片付け、洗濯、そうじ、買い物、レクリエーション、散歩など利用者一人ひとりの生活歴や力を見つけ出し支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて買い物、ドライブ、墓参り、幼稚園の運動会、文化祭等行事など戸外に出かけられるように配慮し、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として支援をしている。また、外出できないときでも外気浴を行い、体の新陳代謝や生活のリズムの調節、気分転換に努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は、入居者の状態を把握し、入居者一人ひとりのサインを見逃さず、さりげなく一緒に散歩にでるなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアルを作成し、近隣や地域の方へ協力を呼びかけ、夜間体制がふくまれた避難訓練を行っている。非常時の備蓄の管理もされている。しかし非常口前には洗濯の物干しや道具がおりてあり、非常口として機能しているとは言い難い。	○	非常口前の整理もしくは、洗濯干し場を移設するなどの対策が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や必要と判断した方の水分摂取量を個人別の記録に毎日記録し、ケアに活かしている。献立は同じものが重ならないように料理本などを利用し入居者の希望に沿った食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心やすらぐ家庭的な雰囲気がたどよい、生活感や季節感が感じられる空間となっており、リビングは日差しが差し込み明るく、過ごしやすく、利用者は、思い思いの場所でくつろげる。居心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室が用意され好みで居室が選べ、タンスなど個人のもので持ち込まれている。部屋には写真やお便りなどが飾られ居心地よく過ごすことができるような配慮が感じられる。		